

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2・3	散歩での挨拶や地元からの食材購入など日常的な交流は行っているが消防・避難訓練の開催、納涼祭や記念祭などのイベントに近隣住民の方に参加して頂けることがほぼ無い。	誰でも気軽に立ち寄れる施設を目指す。施設の顔が見れるような外部に開いた施設にしたい。	散歩での挨拶や地元からの食材購入など日常的な交流は継続し、地域交流の土台とする。近隣の方々に施設の顔が見れるような働きかけを行いたい。庭を改装したドックランの整備などを行う。	12ヶ月
2	13・14	職員の自発的な研修参加(外部・内部問わず)が減少している。人員不足により研修参加日を設けることが難しくなっていることが原因である。	積極的に研修参加できる土台を作り。介護技術・知識の取得に励み、自己研鑽できる介護職員の育成。	まずは十分な人員補充を行い、研修参加日を設けることから始める。そして、職員の技量に合わせ研修をアナウンスし参加してもらい、自己研鑽に励んでもらう。研修報告書を提出し業務にフィードバックすることで研究受講日は出勤扱いとする取組は継続する。	6ヶ月
3	34・35	消防署協力のもと、消防・避難訓練の実施や普通救命・上級救命の研修受講などを行っているが、幸いなことではあるが実践する機会がなく、災害時や急変時における対応に職員から不安の声が挙がることある。また、地元からの協力を得られるかどうか難しいのが現状である。	災害時における地域と施設による協力体制の構築。	地域の方々に施設を知ってもらう為の取り組みを徹底的に行う必要がある。散歩時の挨拶などの日常的な交流など継続し、施設に来所しやすい環境作りを行う。	6ヶ月
4	31・33・34	心身の状態変化により重度化される入居者様が増えており、現在の施設内設備では十分な対応が取れないこともある。	施設内設備の充実化を図り、入居者様に十分な介助支援を行えるようにする。	施設内設備の充実化を図り、入居者様に十分な介助支援を行えるようにする。	3ヶ月
5	20・51	入居されてしまうと在宅時にあった交流や馴染みの方々との関係性が薄まってしまう。	気軽に立ち寄れる施設を目指し、入居者様が外部とのつながりを断ち切らないような関係性の構築。	入居者様から馴染みの地名や人名が挙がった時は職員で共有しご家族に伝え、お好み外出の機会を設けたり、手紙や電話を用いて連絡をしていただけるかどうか検討していただくなどの取り組みをおこなう。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。